新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第88号

§ 平成 29 年度愛鳥講演会　テーマ「渡り鳥」 §

愛鳥センター伊藤所長による開会のあいさつ

平成 29 年 11 月 23 日（木・祝）に新潟県立生涯学習推進センター1 階ホールにおいて、愛鳥講演会を開催しました。テーマを決めて講演を行うスタイルになって 4 回目となりました。参加者は 75 名（内講師 2 名）でした。

今年度のテーマは「渡り鳥」。昨年度のアンケートでリクエストが一番多かったものです。

講演は、調査研究の視点から標識調査結果について、またバードウォッチャーの視点からシギ・チドリ類の渡りについてお話しいただきました。

長年継続した貴重なデータを披露してくださった伊藤泰夫氏

最初は、日本鳥類標識協会新潟グループの伊藤泰夫氏から「新潟市海岸保安林の鳥類標識調査」と題し、新潟市の関屋海岸保安林で行っている鳥類標識調査について講演いただきました。30 年近くにわたる調査で放鳥したのは 99 種類、約 18 万羽、特にメジロの放鳥数は全国一など、長年の貴重なデータの数々は目を見張るものでした。標識調査から分かった興味深い結果に会場一同じっくり耳を傾けました。

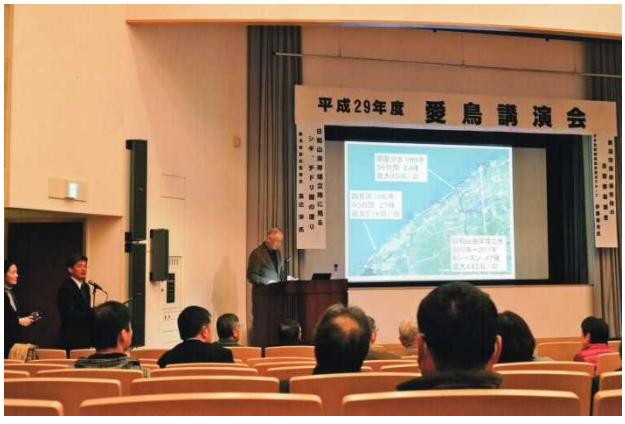
参加者からは「長年の継続した調査がすごい」「とても興味を引くお話で面白かった」などの感想が寄せられました。

つづいて、新潟県野鳥愛護会の高辻洋氏から「日和山海岸埋立地に見るシギ、チドリ類の渡り」と題し、日和山海岸埋立地におけるシギ、チドリ類の渡りの様子について講演いただきました。

ユーモアを交えながら観察の様子を紹介してくださった高辻洋氏

埋立地の造成の経緯に始まり、それぞれの季節に出現するシギ、チドリ類の紹介、珍しい種類の渡来などについて、観察されてきた 8 年間の環境変化とともに分かりやすく説明していただきました。また鳥たちの写真はどれも素晴らしく、ハヤブサの狩りの様子も迫力がありました。なぜ埋立地にシギ、チドリ類が集まるのか、標識放鳥されたシギの記録から分かることについてのお話も大変興味深いものでした。参加者からは「分かりやすく面白かった」「大変勉強になった」「シギ、チドリが少し身近になった」などの感想が寄せられました。

講演会終了時に参加者から提出していただいたアンケート結果や今後の情報収集を参考に、皆さんが高い関心を持っている野鳥をテーマに次年度も講演会を開催していきます。ご期待ください！



会場の様子

§「油等汚染事故対策水鳥救護研修を受講して」§

ある日、愛鳥センターに来館された青年から、私はこう訊ねられました。「野鳥保護に対して、何か自分にできることはありませんか？」思いがけない質問に、当時は曖昧な返事しかできませんでしたが、今ならこう答えます。「油等汚染事故対策水鳥救護研修を受講されるのはいかがですか？」

この研修は、福井県沖でロシア船籍ナホトカ号の事故による油流出によって、多くの水鳥が油で真っ黒になり命を落とした事件を機に始められました。「環境省水鳥救護研修センター」のホームページから申し込みでき、ボランティアの参加も可能です（交通費と宿泊費がかかります）。２日間の講義・研修は非常に実践的で分かりやすく、最後に修了証書がもらえ、希望者は連絡先が登録されます。特に冬の日本海は荒波で船の事故率も高まるうえ、多くの鳥が冬に飛来し油汚染事故の確率も高まります。救護知識を持ったリーダーが多い方が、多くの命を助けることができます。

最後に、一番印象に残った皆川先生の講義から。

－石油の恩恵を受けている私達にとって、事故時に何の罪もない水鳥を救うのは責務である－　（井上）

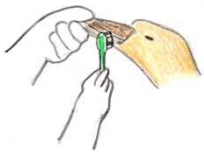
＊環境省水鳥救護研修センター

http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/oiled-wb/

研修では、油の性質や事故の教訓を講義で学ぶほか、実際にアイガモで洗浄の練習ができます。洗浄と言っても、ごしごし洗うのではなく、食器用洗剤を入れたお湯に入れて、なじませて科学的に溶かすのです。羽毛の構造を壊さないように羽の向きにも気をつけます。首から上は歯ブラシを使います。

びっしょり濡れているアイガモの汚れが取れ、水をはじくようになった時は感動します。水がかかっているのに、水玉が転がるように撥水性を取り戻すのです。あとはタオルでおさえて乾燥室に入れます。するとカモは自ら羽毛を整え始めます。本当に大切な羽毛です。

油流出事故は対応スピードが早ければ早いほど、自然へ帰れる鳥も多くなります。かといって慌てすぎてはいけません。有毒な油ですのでマスクや手袋で自分を防護することも大切です。万が一の場合に備えたいと思います。　（岡崎）



§おめでとう！！　南魚沼市立第二上田小学校が日本鳥類保護連盟会長賞を受賞§

ステージからの口頭発表の様子

「第 52 回全国野生生物保護実績発表大会」（主催：環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟）が 11 月 27 日（月）に環境省にて開催されました。

シジュウカラ第 87 号でお知らせしたとおり、本県から推薦された南魚沼市立第二上田小学校が一次書類審査を通過して全国大会に出場し、「日本鳥類保護連盟会長賞」を受賞しました。

今後も学校と地域、そして指導くださる野鳥保護団体の方々と連携を深め、更なる活動を期待いたします。

大会で発表した児童と引率をされた校長先生からのコメントは次のとおりです。

児童代表：会場には、80 人くらいの人がいて緊張しましたが、自分たちの活動を聞いてもらえてよかったです。また、原稿を覚え 3 人で力を合わせて発表できました。カブトガニやフクロウなどを保護する他の学校の取組を聞くことができ、勉強になりました。貴重な体験をすることができてうれしかったです。

校長先生：当校の目玉である鳥の絵を描いた「鳥のぼり」、地域の自然を宝として見つける「上田の宝探し遠足」、３年間の個人研究「ツバメの研究」を入れ、自然を楽しむことを発表しました。自然を守るには、自然は素晴らしいと感じる体験を多く積むことが大切だと考えています。 特に小学生において自然と親しむ体験は、地域の自然を誇りに思い行動する土台となります。私が敬愛する当大会の主催者の矢島稔氏から「日本鳥獣保護連盟会長賞」を受賞でき光栄です。県愛鳥センターや県環境部の方々、地元の行政や有識者の方々の継続的な支援に感謝いたします。

笑顔でパチリ！

大会主催者と記念撮影

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成 29 年 8 月 1 日～11 月 30 日までの収容数は、鳥類 59 種 164 羽、獣類 2 種 2 頭で、昨年度の同時期（鳥類 159 羽獣類 3 頭）と比べ鳥類は増加した。

平成29年度　8月～11月の傷病鳥獣収容結果

収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数	収容NO.	種類	7月末収容数	収容数	放鳥獣	返還譲渡	死亡	11月末収容数
（鳥類）								32	アカショウビン		2			2	0
1	キジ		3			3	0	33	アオゲラ		1	1			0
2	コハクチョウ	7	7	2	1	3	8	34	チョウゲンボウ	2	1	1	2		0
3	オオハクチョウ		2			1	1	35	ハヤブサ		1				1
4	ヒドリガモ		1	1			0	36	オナガ		1			1	0
5	マガモ	1	3	3			1	37	ハシボソガラス	2	1			1	2
6	カルガモ	6	4	6		4	0	38	ハシブトガラス		1			1	0
7	コガモ		3	1		2	0	39	ツバメ	1	8	3		6	0
8	カンムリカイツブリ		1			1	0		イワツバメ	1		1			0
9	キジバト		7	3		3	1	40	ヒヨドリ	1	1	1		1	0
10	アオバト		8	3		4	1	41	ウグイス		12	4		8	0
11	オオミズナギドリ		3	2		1	0	42	ヤブサメ		2	2			0
12	オオヨシゴイ		1	1			0	43	メボソムシクイ		6	4		2	0
13	ゴイサギ	1	1	2			0	44	センダイムシクイ		2	1		1	0
14	アマサギ		1			1	0	45	メジロ		2			2	0
15	アオサギ		2			2	0	46	シマセンニュウ		2			2	0
16	ダイサギ	2	2			3	1	47	オオヨシキリ		1			1	0
17	チュウサギ		1			1	0	48	ムクドリ	1	4	2		3	0
18	オオバン		5	2		3	0	49	クロツグミ		2			2	0
19	ジュウイチ		2	1		1	0	50	シロハラ		1			1	0
20	ツツドリ		5	3		2	0	51	ツグミ		2			2	0
21	ヨタカ		2	1		1	0	52	コマドリ		2	1		1	0
22	シロチドリ		1	1			0	53	スズメ		10	3		7	0
23	ヤマシギ		6	4		2	0	54	ハクセキレイ		2			2	0
24	ウミネコ	2	5	1		3	3	55	カワラヒワ		4	1		3	0
	セグロカモメ	1				1	0	56	マヒワ		1			1	0
	ミサゴ	2				2	0	57	イカル		1	1			0
25	トビ	9	1	3	3		4	58	ドバト		5	3		2	0
26	オオタカ		1			1	0	59	不明		1			1	0
	サシバ	1				1	0	小計		43	164	71	7	103	26
27	ノスリ	1	1			1	1								
	クマタカ	1					1	（獣類）							
28	オオコノハズク		2	1		1	0		ムササビ	1			1		0
29	コノハズク		1			1	0	1	タヌキ		1	1			0
30	フクロウ	1	2	1	1	1	0	2	アブラコウモリ		1			1	0
31	アオバズク		1				1	小計		1	2	1	1	1	0
								合計		44	166	72	8	104	26

＜特記事項＞

・オオヨシゴイ

平成 29 年 10 月 3 日、新潟市北区尾山地内で保護され、同日センターに収容された。

左膝関節を脱臼しており、歩行出来ない状態であったが、テーピングでの固定処置等治療飼育に努めた結果、回復したので、10 月 10 日に放鳥した。

収容時の体重：86.6g（放鳥時の体重：96g）

この個体は、平成 14 年に次いで 4 例目。

オオヨシゴイ

＜その他＞

・ヒドリガモ　6 例目（平成 22 年収容以来）

・ジュウイチ　8 例目（平成 24 年収容以来）

§8～11 月の探鳥会・観察会§

8/27（日）シギ・チドリ観察会　9:00～10:45　（晴れ）
場所：網代浜　参加者:36 名　観察種：21 種【①】

ウミネコを見ながら砂浜を進むと、波打ち際にトウネンが数羽いるのが見られました。忙しなくエサを採りながら次々と脇を通り過ぎていき、なかにはミユビシギの群れやハマシギも混じっていました。他にイソヒヨドリやノスリなども見られました。

ミユビシギの群れも見られました

虫の音に耳を傾けます

9/2（日）マツムシの声を楽しむ会　18:00～20:00　（晴れ）
場所：紫雲寺記念公園　参加者:14 名　観察種：14 種
（紫雲寺記念公園グループ共催）

センター周辺で数種類のコオロギやカネタタキの声を聞いたあと、草むらや畑へ向かい散策をしました。あたりが徐々に暗くなるとスズムシや本命のマツムシなどの鳴き声が聞こえ、オオクサキリやマツムシ、スズムシ、エンマコオロギなどを間近で見ることもできました。

9/24（日）タカの渡りを見る会　9:30～11:00　（晴れ）
場所：剣龍峡　参加者:57 名　観察種：15 種【②】

良いお天気で、観察地点に着くと早速ハチクマやツミがぽつぽつと渡っていきました。時々サシバやノスリも混じりながら、多くは北東方向から南西方向に向かっていました。と、突然イヌワシ 2 羽が現れ、参加者一同、感激しながら見送りました。その後終了間際に次から次へとハチクマやツミが登場。渡りをする蝶のアサギマダラもたくさん飛んでいました。

みんなで空を見上げます

ミゾソバきれいでした

10/22（日）秋の渡りを見る会　9:00～10:50　（雨）
場所：福島潟　参加者:22 名　観察種：29 種【③】

朝から雨が降っていましたが、潟の中ではたくさんのコガモが出迎えてくれました。マガモやオナガガモも多くいましたが、ほとんどは羽換わり途中の地味な装いでした。潟端で咲き誇るミゾソバを見ながら進んでいくと、タシギの群れやモズに出会い、雁晴舎からはノスリやチュウヒが見られました。

10/29（日）紫雲寺記念公園探鳥会　9:00～10:30（雨）
場所：紫雲寺記念公園　参加者:7 名
観察種：16 種【④】（紫雲寺記念公園グループ共催）

朝から雨でしたが、シジュウカラが元気よく飛び回っていました。その他多くの鳥たちは鳴き声のみの確認でしたが、ホオジロ、カシラダカ、アオジのチチッ♪やチッ♪の声が良く聞かれ、みんなで聞き分けの練習になりました。秋ならではのモズの高鳴きも聞くことができました。

東屋で雨宿りしつつ鳥を探しました

11/12（日）冬の初心者探鳥会　8:00～9:20　（くもり）
場所：瓢湖　参加者:10 名　観察種：26 種【⑤】

ハクチョウたちは観察会開始前にほとんど飛び立って行きましたが、代わって色とりどりのカモたちを観察することができました。たくさんのオナガガモやキンクロハジロ、ホシハジロなどの中には、ハシビロガモや雑種のカモも混ざっていました。奥の観察舎付近では、コガモやオオタカの幼鳥、ノスリがじっくり見られました。

ひしめきあうカモたち

探鳥会の確認鳥種

No.	種名	①	②	③	④	⑤
1	キジ				●	
2	コハクチョウ			●		●
3	オオハクチョウ					●
4	ヒドリガモ			●		●
5	マガモ			●		●
6	カルガモ			●		●
7	ハシビロガモ					●
8	オナガガモ			●		●
9	コガモ			●		●
10	ホシハジロ					●
11	キンクロハジロ					●
12	カワアイサ					●
13	カイツブリ			●		
14	カンムリカイツブリ			●		●
15	キジバト	●	●	●	●	●
16	カワウ			●		●
17	ウミウ	●				
18	アオサギ	●		●		●
19	ダイサギ			●		
20	オオバン			●		●
21	アマツバメ		●			
22	シロチドリ	●				
23	タシギ			●		

No.	種名	①	②	③	④	⑤
24	キアシシギ	●				
25	ミユビシギ	●				
26	トウネン	●				
27	ハマシギ	●				
28	ウミネコ	●				
29	オオセグロカモメ	●				
30	ミサゴ	●				
31	ハチクマ		●			
32	トビ	●				●
33	チュウヒ			●		
34	ツミ		●			
35	オオタカ					●
36	サシバ		●			
37	ノスリ	●	●	●		●
38	イヌワシ		●			
39	カワセミ			●		
40	コゲラ		●		●	
41	アカゲラ	●		●		
42	アオゲラ				●	
43	モズ			●	●	
44	オナガ				●	
45	ハシボソガラス			●		●
46	ハシブトガラス	●	●	●	●	

No.	種名	①	②	③	④	⑤
47	ヤマガラ		●			
48	ヒガラ					
49	シジュウカラ		●	●	●	
50	ツバメ	●				
51	ヒヨドリ		●	●	●	●
52	メジロ		●			
53	ムクドリ			●		●
54	ツグミ				●	
55	ジョウビタキ				●	
56	イソヒヨドリ	●				
57	スズメ	●		●	●	●
58	キセキレイ					
59	ハクセキレイ	●	●	●		●
60	セグロセキレイ					●
61	カワラヒワ	●		●	●	
62	イカル		●			
63	ホオジロ	●			●	
64	カシラダカ				●	●
65	アオジ			●	●	
66	オオジュリン			●		
	計	21	15	29	16	26

§ 鳥情報　マナヅルの飛来について　　伊藤所長 §

昨年は県内でマナヅルの飛来が何回か観察され、愛鳥センターにも情報をいただきました。10 月 27 日に福島潟の周辺でマナヅル 1 羽が確認され、情報をいただきましたが、その後の確認はありません。11 月 8 日には、新発田市加治川小付近の田んぼでマナヅル 1 羽が観察され、9 日朝に撮影された方から情報をいただき、また新潟日報にも紹介されました。その後この個体は、長くこの周辺に留まり、湛水田でハクチョウとねぐらをとり、朝早くから周囲のお気に入りの田んぼで採餌する姿が確認されています。多少の降雪にも耐え 12 月上旬までは滞在しておりました。

また、福島潟周辺では 11 月 22 日頃からマナヅル 9 羽が確認され、その後も新発田市の田んぼで 27 日頃まで確認されました。この群れは幼鳥 1 羽を含む家族群で常に一緒に行動していたようです。その後石川県に移動し、地元の新聞に掲載されています。

加治川小周辺で滞在していた 1 羽は、その後日本海東北自動車道中条インター付近の田んぼで採餌や上空を飛ぶハヤブサ等を警戒する姿が観察されました。1 月中旬の降雪で移動したようですが、北帰行までの間、無事に採餌できることを願っています。

加治川小付近で確認されたマナヅル

§ 平成 30 年度愛鳥週間用 ポスター原画募集新潟県大会 §

平成 30 年度愛鳥週間用ポスター原画募集新潟県大会の審査会を平成 29 年 9 月 8 日に愛鳥センターで行いました。このポスター原画募集は制作過程を通じて野生鳥獣保護思想の高揚を図る目的で県内の愛鳥モデル校より毎年募集しているもので、今年度は小学校から 230 点（7 校）、中学校から 68 点(2 校)合計 298 点の応募がありました。（審査結果は表のとおりです）

今年度の特徴は、バラエティに富んでいて、一生懸命描いていることが伝わってきた作品が多く、指導者の熱意も伝ってきました。絵の具の使い方も上手で、丁寧に書き込んでいました。小学校の部では身近な鳥の子育ての様子を非常よく観察して描いた南魚沼市立第二上田小学校 6 年内田浬聡さんの作品が、中学校の部では、目に迫力があり、訴える力が優れていた五泉市立愛宕中学校 3 年柴田凛子さんの作品がそれぞれ金賞を受賞しました。金賞・銀賞の作品は公益財団法人日本鳥類保護連盟による全国大会へ応募しました。

〈審査結果表〉

賞	小学校の部	中学校の部
金賞	内田浬聡(第二上田小 6 年)	柴田凛子(村松桜中 3 年)
銀賞	髙井　貴　(分水北小 5 年) 布施啓楠　(明治小 5 年)	松尾美空(村松桜中 3 年) 宮下咲姫　(中郷中 2 年)
銅賞	加藤真実　(中条小 5 年) 五十嵐大和　(藤塚小 3 年) 髙橋政晴(第二上田小 6 年)	今井にこ(村松桜中 3 年) 佐藤玲生(村松桜中 3 年) 松尾美咲(村松桜中 2 年)

月	8 月	9 月	10 月	11 月	計	累計
来館者数	935	1, 479	939	429	3, 782	608, 820

館内設置のトキ募金箱の報告

平成 29 年 9 月～平成 29 年 12 月　*5, 863 円*

累計　２８４，８８０ 円

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。
今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里
開館時間：午前 9 時～午後 4 時
休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）
〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池
Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501
HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho
E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

小学校の部「金賞」
内田浬聡さん（第二上田小 6 年）

中学校の部「金賞」
柴田凛子さん（村松桜中 3 年）

§ 全国大会結果報告 §

全国大会「入選」
宮下咲姫さん(中郷中 2 年)

平成 29 年 10 月 20 日（金）に、「平成 30 年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール全国大会」の審査結果が発表されました。（応募総数全国約 60, 000 点）

本県からは小学校の部 3 点、中学校の部 3 点の計 6 点を応募しました。その中から中学校の部で銀賞を受賞した宮下咲姫さん（上越市立中郷中学校 2 年）の作品が「入選」しました。

3 月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・ハクチョウを見送る会（お幕場大池駐車場集合）
3/4（日）　9:00～11:00

講演会ほか（申込みが必要です）

・新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）
2/18（日）　10:00～15:00
内容：午前は瓢湖で探鳥会、午後は阿賀野市福祉会館で野鳥保護の集い（講演会等）
申込・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500
申込締切：2 月 11 日（日）まで
参加費：無料　/　定員：100 名（先着）
対象：小学校高学年以上

・愛鳥学習会（県立生涯学習推進センター）
3/11（日）　13:30～15:00
内容：野鳥観察を始めたばかりの方を対象に野鳥の基礎知識が学べる初心者向けの学習会を開催します。
講師：日本野鳥の会新潟県会長　石部久　氏
申込・問合せ：愛鳥センター 0254-41-4500
申込締切：3 月 4 日（日）まで
参加費：無料　/　定員 80 名（先着）